



第2章の3

LD・ADHD等通級指導教室での指導・支援

LD・ADHD等のある子どもで通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な支援が必要な子どもの学びの場の一つとして、LD・ADHD等通級指導教室があります。

このLD・ADHD等通級指導教室は、市町村の就学相談委員会等が総合的な見地から、「各地区に設置されたLD・ADHD等の通級指導教室において指導を受けることが望ましい」という判断を行い、保護者が同意して、学校長が「特別な教育課程の編成」を届け出た上で行う指導・支援の場です。

LD・ADHD等通級指導教室では、その子どもに応じて指導目標を設定し、障害の改善、克服を目的とした自立活動を中心に指導・支援を行います。特に必要と判断されたときは各教科の内容を補充するための指導を行うこともあります。また、指導時間は、下限年間10時間から上限280時間に定められています。

近くにLD・ADHD等通級指導教室がある場合には、必要に応じて、通級による指導を検討してみましょう。また、発達障害等のある子どもの指導・支援について悩んだり困ったりしたときには、LD・ADHD等通級指導教室担当者に相談してみましょう。

事例 26

友だちとのトラブルが多い子どもへの指導

～人とのかかわりを楽しめることを大切に～

小学校入学当初から動きが激しく、全体への指示が入りにくいタケルさん。教室を歩き回ったり、机に座ったりすることが多く、担任がふと目を離した隙に廊下に出て、水飲み場やトイレに行くこともあり。また勝ち負けに対するこだわりが強く、自分の非を認めないところがあったため、友だちとのトラブルが多い毎日でした。

保育園の頃から市町村の就学相談室で適切な就学の在り方が検討されてはいましたが、入学後に通級による指導が適切であると判断され、6月から週に2時間の指導を開始しました。通級担当、担任、保護者が連絡を取り合いながらスモールステップで課題を克服していったタケルさんの事例を紹介します。

◇ 入学当初のタケルさん ～ こんなことがありました ～
 〈水遊びで・・・〉



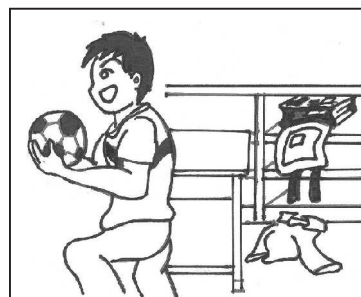
〈授業中に・・・〉



〈みんなが床に座っていても・・・〉



〈ものを放り出して・・・〉

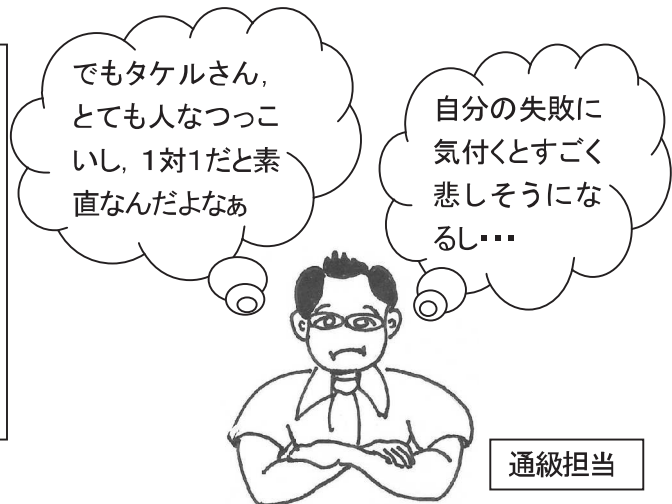


ふざけていないで—
 手をつないでよ—

〈レクリエーションで・・・〉



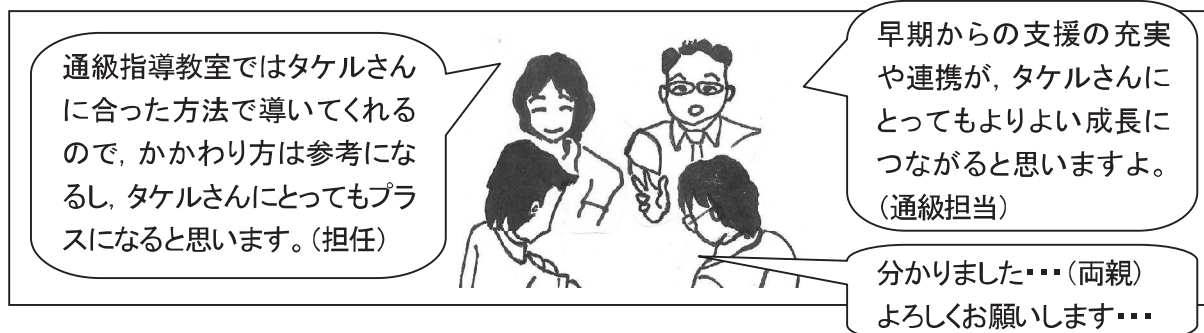
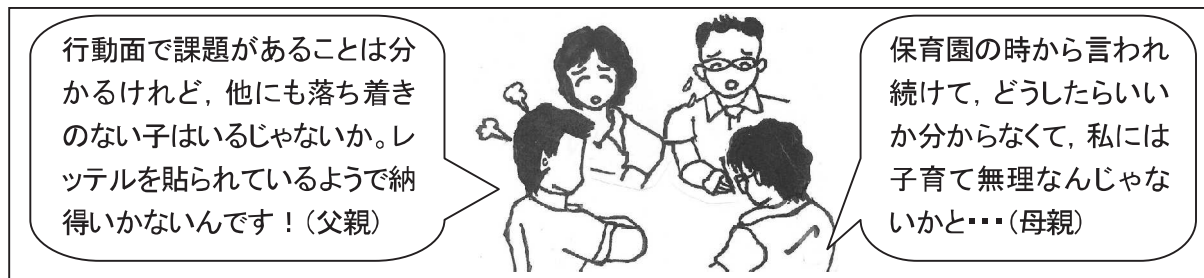
〈学級指導で…〉



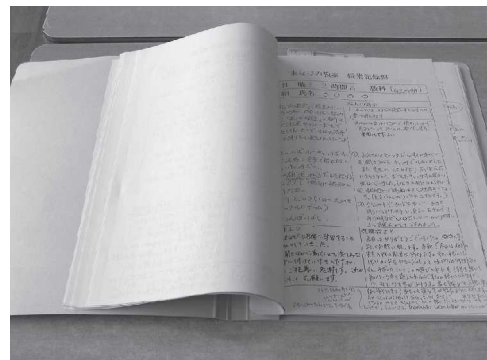
通級担当

◇ 保護者との懇談・担任、保護者との連携

通級による指導が必要だという判断がなされた後、通級指導教室担当、学級担任、保護者で懇談をし、本人の現状をお伝えするとともに、保護者の思いをお聞きました。すると母親は子育てに対する自信のなさを訴え、父親は今までに抱えてきた不安や不満を洗いざらい吐き出してくれました。しかし、この懇談を通してご両親のタケルさんに対する確かな愛情を感じ取ることができました。その後母親は些細なことでもファイルを通して相談してくれるようになり、父親も指導の方針に理解を示して、タケルさんとの接し方を考えるようになっていきました。また、担任は通級指導教室での取り組みを参考にしながら、学級での指導に生かしていくようになりました。

大事にしたこと ～保護者・担任との
連絡ファイルの活用～

- ・ 授業ごとに内容とねらい、本人の様子及びわかり方などを伝える。
- ・ 保護者は家での様子や変化について連絡する。
- ・ 担任は通級指導教室での実践を参考にクラスでの支援の仕方を工夫する。また日々の様子について情報を提供する。



◇ 指導の実際 ～ 感覚の統合トレーニング及びSSTを通して
 落ち着いた学校生活を送られるように～

タケルさんのよさは、人なつこくて身体を動かすことが好きなところ、そして視覚的な手がかりがあれば理解できる力があるところでした。また、タケルさんが自分の気持ちをうまく言い表せなくても、それを分かろうとしてくれるご両親が、タケルさんの自己肯定感を支えてくれました。

指導に際しては、まず学級担任からの情報をもとにタケルさんの可能性を探り、個別の指導計画を作成しました。そしてタケルさんとの信頼関係を築くために、タケルさんにとって楽しいと思える活動をしながら、基本となる学習姿勢を身に付けていくことを最初の教育目標としました。次にこだわりとなっている部分を和らげながら、「正しい行動」と「誤った行動」の絵カードを用いて少しずつ自分自身の姿に気づいていくことを目指しました。また、通級指導教室で学んだことを学級でも徐々に意識できるよう、「こういうときは、どうするんだっけ?」と担任から声がけをしてもらいました。そして半年ほどたってから、友だちとペアを組み、お互いの姿から学び合う場面を設定していきました。

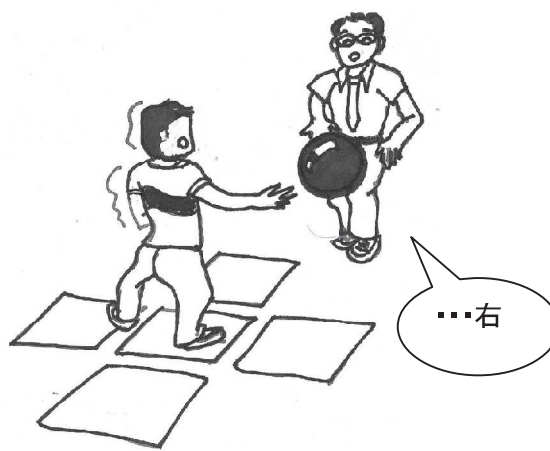
【ステップ1】 「通級指導教室は楽しいところだ」

- ・ 遊びを通して「見る」「聞く」「止まる」「動く」「待つ」ことを意識する。
- ・ はじめと終わりを意識する。
- ・ 少しでも「できた」ことを感じ、喜ぶ。(通級担当と一緒に喜ぶ)

一本足の椅子に座ってのジャンケン遊び



前後左右に動きながらのキャッチボール



学習活動	内 容
・ 始めと終わりの挨拶と姿勢の確認	・ 授業の始まりと終わりのけじめを意識する。
・ 前後左右に動きながらのキャッチボール	・ 指示を聞いてボールをキャッチする。
・ 一本足の椅子に座ってのジャンケン遊び	・ 姿勢を保持し、二つのことを同時に行う。 (感覚の統合)
・ 後出しジャンケン「負けると○だよ」	・ わざわざ負ける体験、こだわりの緩和。
・ 絵カードを用いたSST	・ 客観的に見て、正しい行動を考える。
・ SSTすごろくゲーム	・ 自分だったらどうするか、他の人はどう考えているかを考える。

【ステップ2】 「自分の行いを知る」「負けても楽しめることを知る」

- ・ 自分が実際にしている行動を知る。
- ・ 正しい行動の仕方を知る。
- ・ ゲームの中で、時には負けることがあることを体験する。

一対一のすごろくゲーム



学習活動	内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カード、人形劇を用いたSST「自分の姿」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラスで実際にあったことを、絵カードや人形劇を通して、見て考えることで、自分の行いや姿に気付く。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カードSST「正しい行動の仕方」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想定した場面で、どうしたらいいのかを絵カードで具体的に知る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ すごろく、ばばぬき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ たとえ負けても、「一緒に遊べて楽しかった」と感じられるようになる。

【ステップ3】 「自分の知っていることや考えを相手に伝える」

- ・ 自分が知っていることを思い出して、相手に正しく伝える努力をする。
- ・ 自分の気持ちや考えていることを言葉にする。
- ・ 自分の想いを言葉にすることで手を出してしまうことをなくす。
- ・トラブルが起きてもその様子を正しく伝えることで、周りの人に分かってもらう。

学習活動	内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を見てその様子を考えよう ・ 言葉を並べ替えて文を組み立てよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスや家での出来事について会話しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵に描かれている“もの”だけでなく、その状況が相手に分かるように、必要なことを伝える。 ・ 「なにが（誰が）」→「どうした」を基本とし、「いつ」「どこで」「どのように」を加えていく。そして「どう思ったか」まで考えるようにする。 ・ 話すことに慣れるとともに、自分の考えが言葉を通して相手に正しく伝わることの喜びを感じられるようになる。

ステップ3に進んだ頃から、タケルさんはクラスの中で歩き回ることがなくなり、椅子に座って授業を受けられるようになってきました。通級指導教室では教師との間ではゲームの中で負けることがあっても「楽しかった」と言えるようになり、ペアを組んでの学習でも少しずつ相手のペースに合わせられるようになってきました。そこで、ステップ4では小集団の中でも学んできたことを生かせるように、同じような課題のある、同年代の4名の友だちと一緒にSSTを行うことにしました。

【ステップ4】 「友だちと一緒に、ルールを守って楽しむ」

- ・ 約束やルールを守る。
- ・ 自分の順番になるまで黙って待つ。特に友だちの失敗を指摘しない。
- ・ 勝ち負けにこだわらず、一緒に活動できること自体を楽しめるようになる。
- ・ 友だちのいいところを見つける。

題材例 く だるまさんがころんだ 〉

- 自分の場所(輪っこ)からスタート
- 床にあるカードを2枚拾って戻る
- 輪っこに戻ったら何回でも拾いに行ける
- 鬼役は教師で、「動いた!」と言われたらカードをその場に置いて自分の場所に戻る
- 3分で終了
- カードの裏にある数字(1~3)の合計が得点となる

やくそく

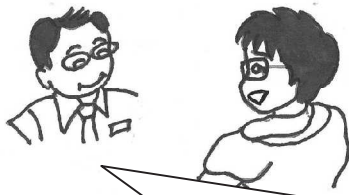
- 他のメンバーの失敗に気付いても、いろいろと言いません。
- すべり込みをしません。
- 待っているときは体を止めます。



☆ カードをたくさん取っても数字が小さければ勝てないこともあります。運もお楽しみのうち!

学習活動	内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ ピンポンキャッチ, ボール運び, 風船バレー, ボール運びリレー ・ SSTすごろく ・ 笑顔で話そう ・ だるまさんがころんだ ・ 右上げて, 左上げて ・ アクシデント付き地図すごろく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が取りやすいようにピンポン玉を飛ばしたり, 風船を打ち返したりする。片手だけを使って大きめのボールをペアになって協力して運ぶ。 (仲間や相手を揶揄しない習慣づくり) ・ 質問カードに対してお互いに素直に答える。 ・ いろいろな表情を作り, 笑顔で話すよさを知る。 ・ ルールを守って遊ぶからこそ楽しめる。また, 失敗があるからからこそ面白いという経験を積む。 ・ 間違えるのは自分だけじゃない。間違えても楽しい。という経験を積む。 ・ ゲームのルールの中で相手を負かそうとする先生に対し, 友だちと協力して対抗する。

【その頃の母親の言葉より】



通級指導教室に通うようになってから、タケルはずいぶん成長したと思います。自分が何とかしなくては・・・と思っていた頃には想像もできなかった姿です。だからこの教室にお世話になって本当によかったです。タケルの助けになってくれて心から感謝しています。

そういう気持ちで見守ってくださっていてありがとうございます。私もお母さんのお言葉で励まされています。でも私がかかわっているのは一部分であって、実は担任の先生が頑張ってくれているおかげなのです。温かく導いてくれていてよかったですね。

友だちとのかかわり方がやわらかくなり、授業にも前向きに参加できるようになったタケルさん。しかし授業中に独り言をブツブツとつぶやいたり、家ではプリントの下にある筆箱を探せなくて泣き出してしまったりするなど、新たな課題が見えてきました。そこで担当者、担任、保護者で懇談をし、医療との連携を図ることにしました。

病院での受診の結果、薬が処方されることになりましたが、医師から保護者に説明があつたとおり、薬そのものが状態をよくしてくれるわけではありません。服薬によって少しでも気持ちや動きのコントロールができていいる間に、いかに正しい考え方、行動の仕方を身に付けていけるかが大切です。そこで、この頃から指導の内容を、学習の基礎や自分でじっくりと考える活動へと、徐々にシフトしていきました。また、学級の中でも、じっくりと見たり聞いたりすることを大切に、相手に伝わるような話し方ができるような場面設定を、担任に考えてもらうようにしていきました。

【ステップ5】 「活動のメリハリをつけながら、学習の基礎を学ぶ」

- ・ ウォーミングアップ（紙飛行機、竹とんぼ作り、ピンポンキャッチ等）。
- ・ なに、だれ、いつ、どこ、どうした、どんな、どうして等を読みとる。
- ・ 見る、聞くことのトレーニング。

【ステップ6】 「正しく読む、じっくり聞いて考える、正しく相手に伝える」

- ・ 国語の教科書の音読（家庭学習：1日2ページを3回）。
- ・ 謎解きゲーム（なぞなぞを解き、暗号を組み立てて宝探しをする）。
- ・ 文章の組み立て（いつ、誰が、どこで、なにを、どうする を組み立てる）。

その後のタケルさんは、授業中時々独り言は出るものの、周りに大きな迷惑をかけることなく、積極的に学習に参加できるようになっていきました。また、友だちのよいところを自然に語れるようになり、周りの友だちからも認められて、担任はその姿に確かな成長を感じ取ることができました。

事例から学ぶ

学級の中に、何らかの困難さを抱え自分の力が発揮しきれない子どもはいないでしょうか。そんな子どもには、必要に応じて、学級集団とは別の場で個別の指導・支援を試みましょう。その際、指導者は子どもとの関係性を大切に、楽しい雰囲気の中で、スモールステップで学習を進めていくことが大切です。また、通級指導教室等で個別の指導を受ける際、そこで学んだことが学級の中でも活かされていこう、担当、担任、保護者が信頼関係を保ち、連携を図っていきましょう。